**自己評価公表シート（２０２1年度）**

認定こども園 ルーテル学院幼稚園

公表日　２０２２年９月

**１．本園の教育目標**

**「神と人から愛され、ただしい、明るい、元気な子ども」を育む。**

**２．本園の教育・方針**

* キリスト教主義による人間形成に重きをおきながら、０歳から就学前までの子どもに一環した教育・保育を行う。

「神と人から愛され、ただしい、明るい、元気な子ども」になって欲しいとの願いをこめ、一人ひとりの子どもを大切にする教育・保育を進める。

* さまざまな環境を通して豊かな遊びの中で、創造性、自主性、社会性を育てる。
* 恵まれた環境の中で、全身を使った豊かな遊びから年齢に応じた「からだづくり」を行い、『食生活』を重んじ、基本的生活習慣を身につける。
* 友だちや保育者との関わりから、国籍・興味・発達など一人ひとりの違いを受け入れ、自分よりも小さな（人だけでなくすべてのもの）他者に対しても思いやりのある心を持つ子どもに育てる。
* 豊かな絵本との関わりを大切にし、様々な出来事の中で感じたり、考えたりしたことを素直に表現することができる子どもを育てる。

**３．評価により見えてきた現状、課題**

|  |  |
| --- | --- |
| 保育環境・環境 | ・園の理念・方針は職員全体に理解され、保育計画、実践に概ね活かされている。しかし、子どもが主体的に遊ぶための環境が整えられているかについては、繰り返しの見直しが必要である。特に園庭の環境については、保育者の半数以上が充分でないと感じており、子どもの興味・関心を深めるための環境づくりには更に工夫が必要である。・総合学院であるがゆえの環境には恵まれており、その環境を保育に活かすことはできている。・保育室の環境構成、整理整頓については、担任によって意識の差があるため意識的に声を掛け合い、子ども目線を意識して整理整頓及び環境を見直すように努めている。・職員全体で集まることが難しいため各学年で話し合うようにしたことで、話し合いたい内容を絞り込む事ができた。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 保育者の役割 | ・保育者はそれぞれキリスト教保育の精神に基づき、子ども一人ひとりを大切に受け止め、丁寧な関わりをすることに努めている。また、子どもの個性を理解し、個々にあった関わりをすりことができている。しかし、研修への参加・学びという点については充分に時間が撮れていない。保育者の質の向上に向けて学びの時間を確保していく必要がある。 |
| 保護者との連携 | ・ケガや子ども同士のトラブル等については、できるだけ丁寧に保護者に伝えることを心掛けているが、子どもの日頃の様子については充分に伝えきれていない。・年度終わりに希望者のみ個人面談を行ったが、今後は実施回数、実施の方法・時期など検討する必要がある。・未就園児への情報発信の仕方を検討する必要がある。 |
| 地域・関係機関との連携 | ・地域との交流、地域に向けての情報発信に於いては不十分で、なかなか改善されない課題のひとつである。・今年度もコロナの影響により、例年行っている地域との交流行事は中止となった。・特別な支援が必要な園児に関しては、訪問支援事業を受ける等、専門機関との連携が増えつつある。 |
| 運営管理 | ・守秘義務の徹底、園長への報告、連絡、相談は速やかに行われている。・連絡・報告・相談の流れができているため、危険個所や改善箇所への対応はスムーズに行われている。・安全、衛星管理の徹底という点では、職員一人ひとりが意識している。・職員が一度に集まることが難しく、共有すべき情報が浸透していないことがあるため、職員間の連絡ノートをつくる等の工夫をしている。 |

**４．総合的な評価**

＊自己評価を定期的に行うことにより、自分自身を振り返る機会になり、また園全体の課題にも目を向けることができ、それぞれの意識の向上に繋がっている。

＊園の教育理念については職員全体が理解し保育に臨んでいるという結果が得られたが、保育計画・環境構成といった具体的内容についてはもっと話し合いの場を設け、繰り返しの見直しが必要である。

＊時間の確保が出来ないことが大きな原因のひとつではあるが、研修への参加、園内研修も含め学びの機会を得られるようにしていく必要がある。

　　（例：　カテゴリー別に少人数・短時間の園内研修、　学年ごとの職員会議など）

＊昨年度に引き続き新型コロナの影響で行事の見直し等を行ったことで、新たな取り組みに繋がった。

また、子どもたちにとっても負担の少ない行事になっていった。

＊コロナ禍ということもあり、地域との交流（敬老の集いなど）は希薄になっているところもあるが、未就園

児のための活動「こひつじの会」は実施しており、活動を通して子育て世代の保護者の交流の場となって

いる。